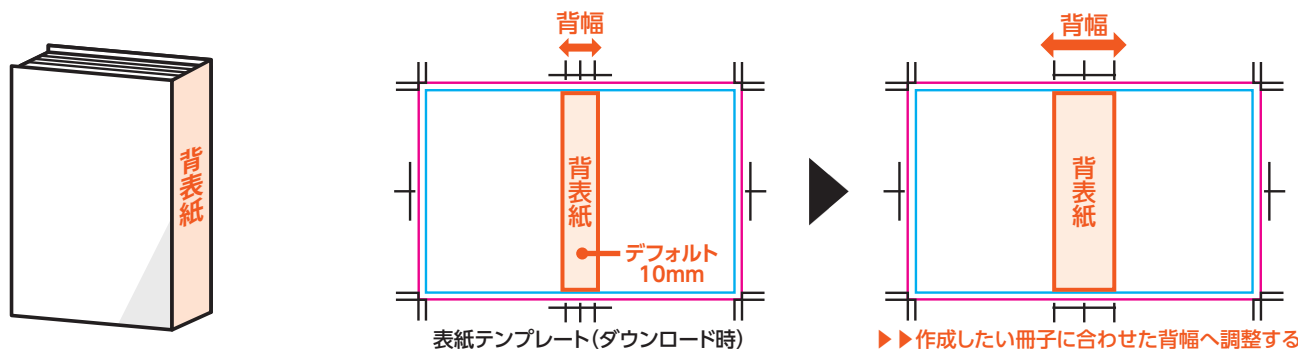


◎背表紙(背幅)の調整について(無線綴じ冊子の場合のみ)

無線綴じ冊子の表紙には「背表紙」が必要です。デザイン前に作成したい冊子に合わせた背表紙の幅(背幅)にテンプレートを調整してください。

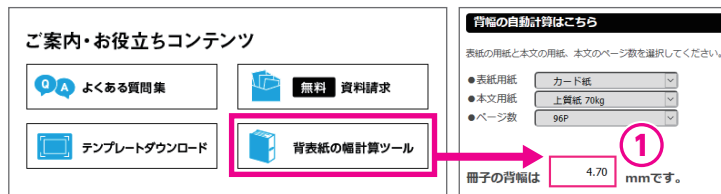


【背表紙の調整手順 (A4テンプレート例)】 拡大・縮小時に「線幅と効果を拡大・縮小する」のチェックは外した状態で、作業してください。

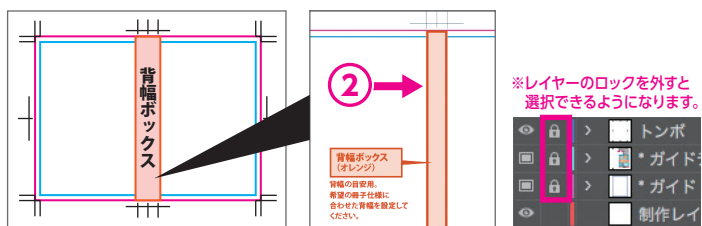
★作成したい冊子に合わせた背表紙の幅を確認

→サイト内「背表紙の幅計算ツール」より、作成したい冊子の背幅(①)を確認します。

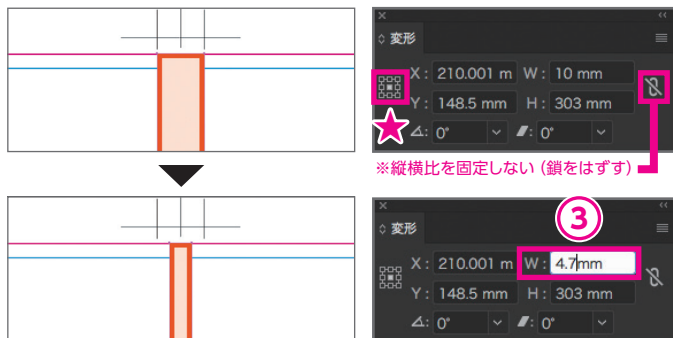
▶背表紙の幅計算ツールページ: <https://printmall.jp/sebyoushi>



【1】背幅ボックスを「背表紙の幅 計算ツール」で確認した数値に調整
表紙テンプレートの【背幅ボックス (オレンジ)・②】を選択します。



変形パネルにて基準点を中央(★)にし、[幅W] (③)に背幅の値(例4.7mm)を入力します。



【2】折りトンプボを調整した背幅ボックスに合わせる

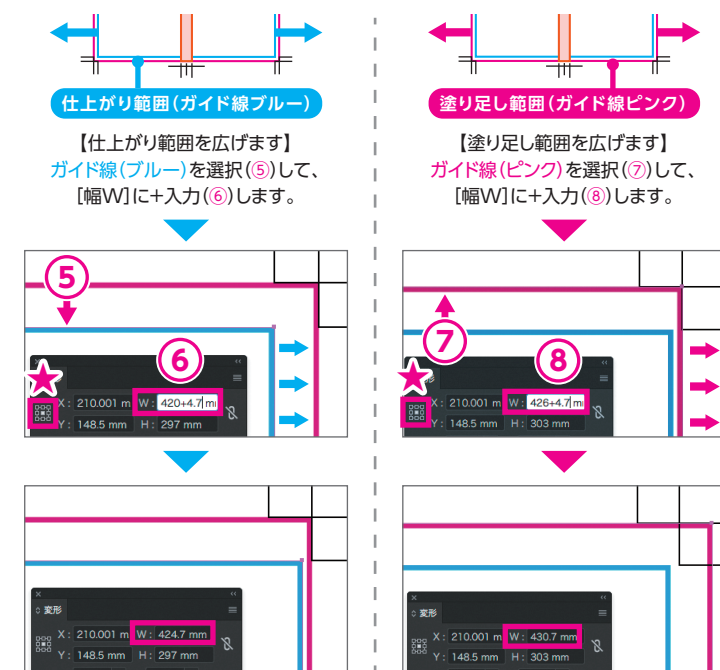
折りトンプボを全て選択した状態で、

変形パネルにて基準点を中央(★)にし、[幅W] (④)に背幅の値(例4.7mm)を入力します。



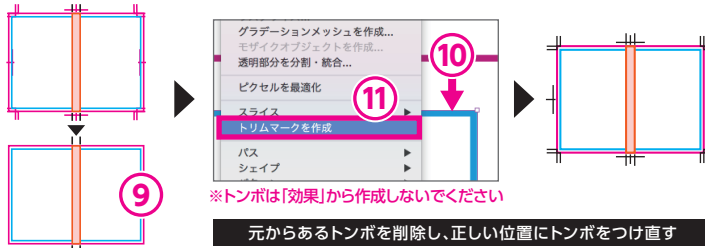
背幅ボックスの両端の延長に折りトンプボが配置できれば完了です。

【3】調整した背幅分「仕上がり範囲」と「塗り足し範囲」を左右に広げる
変形パネルにて基準点を中央(★)にし、[幅W]に背幅の値を「+入力」していきます。



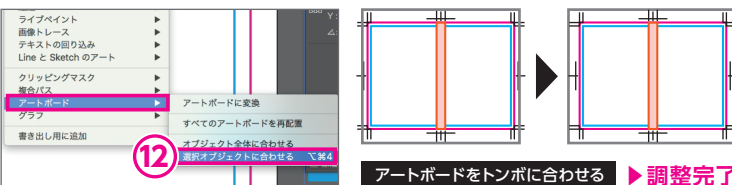
【4】トンプボ(トリムマーク)を再設定

元からついているコーナートンプボとセンタートンプボを削除し、折りトンプボのみの状態にします(⑨)。ガイド線(ブルー)を選択(⑩)し、「オブジェクト」→「トリムマーク作成(⑪)」でトンプボを再設定します。



【5】アートボードを再設定したトンプボに合わせる

【4】で作成したトンプボを選択した状態で、「オブジェクト」→「アートボード」→「選択オブジェクトに合わせる(⑫)」でアートボードを再設定したトンプボに合わせます。



入稿PDFのファイル名の付け方について

「hyoushi_●●●●.pdf」「P001_●●●●.pdf」のように、表紙・本文ページ数がわかるファイル名でご入稿ください(●部分は任意)

※**ファイル名は、全て「半角英数字」**でお願いします。

【例】ファイル名の付け方:中綴じ冊子68Pの場合

例:68ページ冊子=表紙まわり4ページ+本文64ページという数え方になります。

表紙
裏表紙
表紙の裏
裏表紙の裏

hyoushi_●●●●.pdf

hyoushi_ura_●●●●.pdf

P001_●●●●.pdf

ページ数は3ケタで揃えてください

P064_●●●●.pdf

urahyoushi_ura_●●●●.pdf

urahyoushi_●●●●.pdf

本文
P1~P64

本文PDFが1ファイルに結合されている場合

P001-P064_●●●●.pdf

【例】ファイル名の付け方:無線じ冊子68Pの場合

表紙と本文を分けた状態でご入稿ください。

例:68ページ冊子=表紙まわり4ページ+本文64ページという数え方になります。

表紙
背表紙
裏表紙
裏表紙の裏
表紙の裏

hyoushi_●●●●.pdf

hyoushi_ura_●●●●.pdf

無線綴じ冊子の表紙PDF(表裏)は
背表紙を付けた状態でご入稿ください

※背幅に合わせたトンボもつけてご入稿ください

本文
P1

P001_●●●●.pdf

ページ数は3ケタで揃えてください

本文
P64

P064_●●●●.pdf

本文
P1~P64

本文PDFが1ファイルに結合されている場合

P001-P064_●●●●.pdf

入稿について

◎指定形式のPDFデータで、サイトからご入稿ください

入稿形式は「PDFデータのみ」となります。テンプレートにデザインを配置した状態でPDFを書き出してください。

Adobe社製ソフトウェアでデータ作成されている場合は、「PDF/X-4形式(もしくはPDF/X-1a形式)」でPDFを書き出して、サイトより入稿ください。

※Illustratorや、Indesign、Officeなどソフトウェアデータでの入稿は受付けておりません。



◎書き出したPDFの数が多い場合は、圧縮(zip形式)してご入稿ください

